

戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議 第6回協働会議

日時 令和7年2月12日(水)
午後7時から

会場 市役所5階 大会議室

式次第

- 1 開 会
- 2 オリエンテーション
- 3 分科会ディスカッション
- 4 フリートーク
- 5 閉 会

【事前送付資料】

戸田市第5次総合振興計画後期基本計画 協働会議

《第6回資料》

【目次】

1. 『戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議』とは【おさらい】・・・2
2. 話し合いの進め方【おさらい】・・・・・・・・・・・・・・4
3. 第6回協働会議のプログラム・・・・・・・・・・・・・・5
4. 第6回協働会議に向けて(事前に確認いただきたいこと)・・・・・・・・5
5. 参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

令和7年2月

1. 『戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議』とは 【おさらい】

(1) 趣旨と目的

- 戸田市では、市政運営の基本指針となる『戸田市第5次総合振興計画 後期基本計画』を令和7年度末までに策定する予定です。策定に当たっては、様々な手法を用い、市民の皆様から御意見をいただきながら計画づくりを進めることとしています。
- 協働会議は、協働によるまちづくりをテーマに、市民・議会・行政が一堂に会し、戸田市の将来を見据えた意見交換を行う場として、市が企画・運営する会議です。
- 公募市民・団体推薦市民・市議会議員・市職員など31名で構成され、未来のまちづくりの方向性について話し合い、その結果を市長に提言することになります。

『総合振興計画』とは？



市政運営の指針として、市の最上位に位置づけられる計画です。市の将来像や未来のまちづくりの方向性、重点的に取り組むべきこと等について示すものであり、市民の皆さまと共有し、ともに『わがまち・戸田』をつくり上げていくための指針ともなる重要な計画です。

- 市の計画策定スケジュールとの関連は、以下のとおりです。

年度	2024					2025						2026			
	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	9	10	11	2	3
市民等															
戸田市															

協働会議 (2024年9月 - 2025年2月)

意識調査 (2025年4月 - 5月)

パブリックコメント (2025年9月 - 11月)

基礎調査 (2024年8月 - 2025年2月)

総合振興計画(後期基本計画)の検討 (2024年8月 - 2025年11月)

提言 (2025年3月)

計画確定 (2026年2月)

(2) 協働会議のスケジュール

- 協働会議は全 6 回で、開催日程は以下のとおりです。また、提言書提出式は、令和 7 年 3 月に予定をしております。
- 会議は原則公開とし、記録作成のため写真撮影及び録音を行います。予めご承知おきください。

	日時	協議内容など	
第 1 回	9月19日(木) 18:30-21:00	委嘱状交付式、オリエンテーション テーブルディスカッション ・『ここ 5 年間で戸田市の良くなったところ・そうでないところ』	済
第 2 回	10月24日(木) 19:00-21:00	オリエンテーション、分科会ワークショップ ・『戸田市の現状・問題と課題』テーマ 分科会発表・全体意見交換	済
第 3 回	11月19日(火) 19:00-21:00	オリエンテーション、分科会ワークショップ ・『今後 5 年間の目指すべき姿』テーマ ・『目指すべき姿を実現するための取り組み』テーマ 分科会発表・全体意見交換	済
第 4 回	12月19日(木) 19:00-21:00	オリエンテーション、分科会ワークショップ ・『今後 5 年間の目指すべき姿』テーマ ・『目指すべき姿を実現するための取り組み』テーマ 分科会発表・全体意見交換	済
第 5 回	令和7年 1月16日(木) 19:00-21:00	オリエンテーション、分科会ワークショップ ・『提言書(素案)の確認と修正』 ・『市民・議会・行政の役割分担』	済
第 6 回	2月12日(水) 19:00-21:00	オリエンテーション、分科会ワークショップ ・『提言書(案)の最終確認』 分科会発表・全体意見交換 フリートーク(総括)	済 今回はここです
提言書提出式	3月25日(火) 19:00-20:00	市長に提言書を提出	

2. 話し合いの進め方 【おさらい】

(1) ファシリテーター（進行役）について

- 分科会メンバーからファシリテーター（進行役）を1名決めて、話し合いを進行します。

(2) 話し合いに当たって

話し合いのルール

- 公平に、建設的に話し合いましょう。
他の人の意見を遮ったり、感情的に否定したり、特定の個人などを批判することなく、お互いの意見を尊重し、違いを明確にしたうえで、公平に、建設的に話し合いましょう。
- 広い視野で話し合いましょう。
特定の個人、団体や地域の利益につながるのではなく、戸田市の望ましい未来を考え、そのために生かしていきたい強みは何か？といった視点から、市の全体を見渡しながら話し合いましょう。

わからないことがあったら

- 事務局がサポートします。
協働会議は、参加者の皆さまで話し合った意見などを、今後の戸田市のまちづくりに役立てていくための会議です。
「市役所の取組をよく知らない」や「自分が何を話したらよいかわからない」などとお考えになるかも知れませんが、日ごろの生活の中で印象に残っていることや感じていることで構いませんので、積極的にお話してください。

3. 第6回協働会議のプログラム

- 分科会に分かれて、『提言書（案）の最終確認』を行います。

時間（目安）	内 容
18:30～	受付（所属の分科会テーブルに御着席ください）
19:00～ 19:10	(1) 開会 (2) オリエンテーション ● 本日の進め方や事前に配布した資料などを説明します。
19:10～ 19:30	(3) 分科会ディスカッション ● ファシリテーター（進行役）発表者を決めていただきます。 ・『 <u>提言書（案）の最終確認</u> 』
19:30～ 19:50	(4) 発表 ● 分科会で話し合った内容について、発表します。 発表後に、全体で意見交換を行います。
19:50～ 20:15	(5) フリートーク ● 協働会議に参加した感想など、分科会ごとに自由に話し合います。
20:15～ 20:30	(6) 事務連絡、閉会

4. 第6回協働会議に向けて（事前に確認いただきたいこと）

限られた時間での意見交換になりますので、御意見などをあらかじめ準備くださいますようお願いいたします。

【事前に確認していただきたいこと】

別添「提言書（案）」の1ページの「はじめに」は、協働会議一同として記載しています。お手数ですが、事前に確認をお願いいたします。

- 各分科会編成は、以下の通りです。

分科会	基本目標	分野
A	基本目標	テーマ：子育て支援、児童・青少年育成、学校教育
	基本目標	テーマ：消防・救急、防災、防犯、市民相談・消費生活、河川・水路
B	基本目標	テーマ：医療、健康づくり、地域における支え合い
	基本目標	テーマ：高齢者福祉、社会保障、障がい者（児）福祉
C	基本目標	テーマ：市街地整備・景観、住宅、上下水道、公共交通、道路
	基本目標	テーマ：生涯学習、芸術・文化、スポーツ・レクリエーション
D	基本目標	テーマ：緑地・緑化・水辺、公園、地球環境保全、廃棄物・リサイクル
	基本目標	テーマ：起業・就労支援、産業振興、観光振興、協働・交流

分科会【C】テーマ「道路」は、基本目標 になりますが、分科会【C】で担当します。

- 基本目標・分野・施策の対応表は、以下の通りです。

【参考】基本目標・分野・施策の対応表

基本目標	分野	施策名称	冊子の 該当ページ
基本目標 子どもが健やかに育ち いきいきと輝けるまち	子育て支援	(1) 子育て支援の充実	48
		(2) 乳幼児期の保育・教育の充実	50
	児童・青少年育成	(3) 児童・青少年の育成環境の充実	52
		学校教育	(4) 世界で活躍できる人間の育成
基本目標 創造性や豊かな心を 育むまち	生涯学習	(5) 生涯学習活動の推進	58
	芸術・文化	(6) 芸術文化活動の推進	60
	スポーツ・レクリエーション	(7) スポーツ・レクリエーション活動の推進・充実	62
基本目標 共に生き、支えあい 安心して暮らせるまち	医療	(8) 地域医療体制の強化	66
	健康づくり	(9) 健康づくり支援の充実	68
	地域における支え合い	(10) 地域福祉の推進	70
	高齢者福祉	(11) 高齢者福祉環境の整備・充実	72
	社会保障	(12) 国民健康保険・後期高齢者医療・国民年金の円滑な運営	74
		(13) 生活困窮者支援の充実	76
	障がい者（児）福祉	(14) 障がい福祉環境の整備・充実	78
基本目標 安全な暮らしを守るまち	消防・救急	(15) 消防・救急体制の強化	82
	防災	(16) 地域防災力・危機管理体制の充実・強化	84
	防犯	(17) 防犯体制の強化	86
	市民相談・消費生活	(18) 市民相談機能と消費生活の充実	88
	河川・水路	(19) 浸水対策の推進	90
	道路	(20) 安全な道路環境の整備・推進	92
基本目標 快適に過ごせる生活基盤 が整備されたまち	市街地整備・景観	(21) 快適で秩序ある美しい市街地の形成	96
	住宅	(22) 安心して生活できる住環境の充実	98
	上下水道	(23) 上下水道事業の効率的な運営・施設の充実	100
	公共交通	(24) 公共交通が利用しやすい環境の整備・推進	102
基本目標 都市環境と自然環境が 調和したまち	緑地・緑化・水辺	(25) 自然に親しむ空間の整備・推進	106
	公園	(26) 魅力ある公園づくり	108
	地球環境保全	(27) 生活環境の保全	110
	廃棄物・リサイクル	(28) 環境衛生の充実	112
基本目標 活力にあふれ人が集い 心ふれあうまち	起業・就労支援	(29) 多様な働き方への支援・充実	116
	産業振興	(30) 産業振興の推進	118
	観光振興	(31) 地域資源を活用した観光振興の推進	120
	協働・交流	(32) 市民活動の活性化と地域交流の促進	122

(案)

戸田市第5次総合振興計画
後期基本計画協働会議
提言書

戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議

令和7年3月

目次

1	はじめに	1
2	各基本目標における提言	
	基本目標	
	子どもが健やかに育ち、いきいきと輝けるまち	4
	基本目標	
	創造性や豊かな心を育むまち	7
	基本目標	
	共に生き、支えあい、安心して暮らせるまち	10
	基本目標	
	安全な暮らしを守るまち	15
	基本目標	
	快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち	20
	基本目標	
	都市環境と自然環境が調和したまち	23
	基本目標	
	活力にあふれ人が集い心ふれあうまち	26
3	参考資料	
	(1) 戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議の委員名簿	31
	(2) 戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議要綱	32
	(3) 戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議の開催状況	33

1 はじめに

【協働会議とは】

戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議（以下「協働会議」という。）は、市が予定している『戸田市第5次総合振興計画後期基本計画』の策定に当たり、様々な目線から今後5年間（令和8年度から令和12年度まで）に向けたまちづくりの方向性等について話し合い、その結果を市長に提言することを目的とした会議です。

この協働会議は、戸田市自治基本条例を踏まえた協働の実践の場として、市民、議会、行政の三者が一堂に会して行うものであり、私たち委員は公募市民・団体推薦市民・市議会議員・市職員など、様々な立場にある31名から構成されています。

それゆえ、委員の立場や考え方は実に多彩です。委員それぞれが自身の立場から積極的に意見を述べるだけでなく、お互いの考えを理解し、意見を尊重し合いながら、話し合いを進めました。

また、戸田市第5次総合振興計画における7つの基本目標を分科会編成表のとおり8テーマに整理した上で、4つの分科会で2テーマずつ分担して話し合いを進めました。

分科会編成表

分科会	基本目標	テーマ
A	基本目標	テーマ：子育て支援、児童・青少年育成、学校教育
	基本目標	テーマ：消防・救急、防災、防犯、市民相談・消費生活、河川・水路
B	基本目標	テーマ：医療、健康づくり、地域における支え合い
	基本目標	テーマ：高齢者福祉、社会保障、障がい者（児）福祉
C	基本目標	テーマ：市街地整備・景観、住宅、上下水道、公共交通、道路
	基本目標	テーマ：生涯学習、芸術・文化、スポーツ・レクリエーション
D	基本目標	テーマ：緑地・緑化・水辺、公園、地球環境保全、廃棄物・リサイクル
	基本目標	テーマ：起業・就労支援、産業振興、観光振興、協働・交流

分科会Cのテーマ「道路」は、基本目標 になるが、分科会Cで担当

【提言内容の構成】

提言書は、7つの基本目標ごとに、次のとおり整理し、掲載しています。

- 1 基本目標のゴール
- 2 テーマ
- 3 テーマの各分野における提言内容

(以下は分野ごとに記載)

現状と課題

今後、5年間の目指すべき姿

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

なお、「3 目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど」については、戸田市自治基本条例の協働の考えを踏まえ、誰が主体的に担って進めていくのかという観点から、協働の取り組みと市民、議会、行政それぞれが担う取り組みを記載しています。

【提言に当たって】

戸田市は、人口減少・少子高齢化時代にあって、人口を維持し、市民の平均年齢も若い恵まれた地域です。その反面、転出入が激しく、人と人との繋がり希薄化などの問題も抱えています。また、変化の激しい時代において、一つの分野だけでは解決が難しい複雑化した課題も多くあると協働会議を通じて感じました。

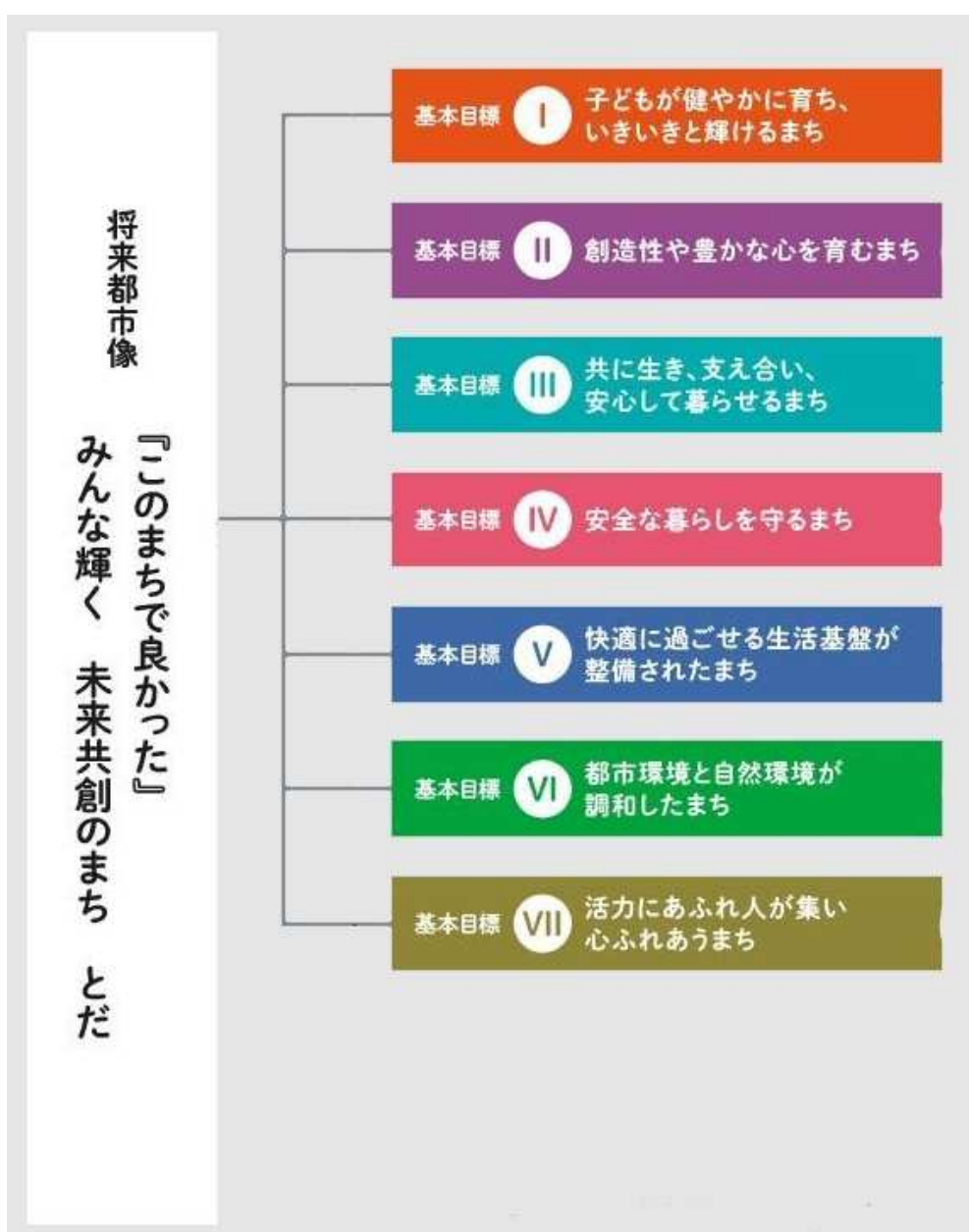
協働会議では、戸田市第5次総合振興計画の将来都市像「『このまちで良かった』みんな輝く未来共創のまち とだ」の実現に向け、今後5年間で何をすべきか？という観点で、話し合い、意見を交わしました。その中で、改めて分かったのは、立場は違えども、“戸田への愛着を持ってほしい”、“もっと良いまちにしたい”という想いが共通しているということです。

私たちが話し合った「今後、5年間の目指すべき姿」に沿って、提言書にまとめているため、戸田市第5次総合振興計画後期基本計画に掲載する全ての施策を網羅しているものではないかもしれません。

しかしながら、この提言が、『戸田市第5次総合振興計画後期基本計画』の策定に生かされ、市民・議会・行政が「協働」の考えの下、戸田市に関わる方々が戸田市に愛着を抱き、一人ひとりが幸せを実感できるまちの実現に向けた、協働のまちづくりが進められることを願っております。

戸田市第5次総合振興計画後期基本計画協働会議 委員一同

2 各基本目標における提言



1 基本目標 のゴール

1 子どもが健やかに育ち、いきいきと輝けるまち

地域全体で子育てを支えるという理念を大切に、子育て支援に積極的に取り組む市として、安心して子どもを産み、楽しく育てることができ、全ての子どもがすくすくと成長する環境づくりを目指します。

また、安全に健やかに過ごせる環境の中で、これからの社会の在り方を見据えた特色ある教育を展開し、子どもたちが未来の創り手となるための力を育むことを目指します。

2 テーマ

【子育て支援、児童・青少年育成、学校教育】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 子育て支援

現状と課題

- 保育園の整備が進められ、希望する保育園に入りやすい状況となっている。
- 慢性的な保育士不足の状態にあり、保育士の確保とともに質の向上も求められている。
- 子育て世帯の支援として、保育料(0~2歳児)の無償化などの経済的な負担軽減策が求められている。
- 地域のボランティア、町会等が実施する子育てサロンを活用し、親同士が交流や情報交換できる場を拡充していくことも重要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 子育て世帯が安心して子どもを預け、仕事も充実させることができるように、保育士のキャリアアップなどの保育士不足の解消につながる仕組みや保育の安全性・利便性が一層高められた環境が整備されている状態。
- 親が休んで子どもを看護する環境づくりを大事にしつつ、病児保育など、困った時に安心して利用できる環境が整備されている状態
- 子育て世帯同士や地域との交流できる場の拡充などにより、楽しみながら子育てができる環境づくりを進め、地域社会全体での子育て力が向上した状態を目指していく。さらには、子育てしやすいまちを市のアピールポイントとして、保育需要の高い都内在勤の子育て世帯の定住促進につなげていく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の 取り組み	【市民×行政】 ・病児保育などの受入施設の増加、受入施設が相談できる医療機関の確保、医療機関との連携による流行り病の情報提供や共有
それぞれの 取り組み	市民 ・共働き世帯が多いことから、企業やマンション事業者が、企業内、マンション内保育園といった利便性の高い保育施設の設置を進めることで、子育てしやすいと感じる市民の増加につなげる。

	議会	・子育てに関する指針や条例などについて時代に合っているかのチェックやアップデートの働きかけをする。
	行政	・保育や子育てに係る市内企業の優良取り組み事例を紹介、横展開することで、働きやすい環境の整備を進める企業を後押しする。 ・安心して預けられる保育環境を維持するため、保育士などのキャリアアップにつながる仕組みの整備など、保育士人材の確保を進める。 ・保育施設の確保にあたっては、企業内、マンション内保育園の設置について、企業やマンション事業者に要請する。

(2) 児童・青少年育成

現状と課題

- 学童保育の待機児童0を目指すとともに、公立学童保育の充実と民間学童保育の質向上が求められている。
- 学校に通い始めると、家庭外での時間が増え、学童やクラブなどの放課後の活動とそこでの大人の関わり方がこどもの成長に与える影響は大きい。
- こどもが安全で安心して過ごせるあそび場、例えば、ボール遊びなど、こどもがやりたいと思う遊びができる場所や機会がもっと必要である。
- 学校が子ども会に求める役割は多いものの、仕事をしている現役世代の保護者は、地域活動や子ども会に参加するのが難しいなど、加入者は減少し加入率は3割程度しかおらず、異年齢交流などの活動機会が少なくなっている。

今後、5年間の目指すべき姿

- 子ども会をはじめ、学童保育や放課後子どもクラブ等、こどもの受入れ先の選択肢が豊富で、活動が充実している状態
- いろいろな人との関わる中で、こどもの成長につながるよう、それぞれの居場所において、人材が充実している状態
- 児童センターやそれぞれの居場所が連携しながら、利用者のニーズをつかんだワクワクするような遊びや各団体の活動が充実している状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の取り組み	【市民×行政】 ・新たな受入れ先の確保などにより、こどもの受入れ先の選択肢を増やす。 ・連携した活動を行っている市内企業（SDGs パートナー企業など）と各団体をマッチングすることで、活動の幅を広げていく。 ・民間や公立学童保育室の学童指導員として、フルタイムなど、自分に合った働き方で安心して働き続けることができるようなキャリアプランの創設、学生ボランティアを通じ、やりがいなどを知ってもらえるよう学生向けの取り組みを行う。
それぞれの取り組み	市民 ・子ども会など各団体は、地域事業者（SDGs パートナー、スポーツクラブ等）との協力関係を構築し一緒に地域活動等を行うことで、活動を活発化していく。
	議会 ・放課後子ども教室などの人材不足の対応策や放課後のこどもの受入れ先などに関する先行事例の研究を行う。
	行政 ・放課後子ども教室などの人材不足の対応策として、余剰時間のある学生や定年後人材を活用する。地域での社会活動の機会を持つことができるほか、定年後人材はこれまでの経験を活かして活躍することで、セカンドライフの充実につながる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・興味がある遊びなど、こどものニーズを把握する。Web、無記名回答や意見募集の方法自体をこどもから募集するなど、効果的に回答してもらえ方法で行っていく。 ・キャリアプランの創設とあわせて、学童指導員や放課後児童支援員の報酬体系の見直しを検討していく。 ・居場所の拡充として、スポーツセンターなどの今ある施設の活用を検討していく。
--	--

(3) 学校教育

現状と課題

- 地域や個人差、経済状況や外国をルーツに持つことなどに関係なく、1人ひとりの個性を伸ばし、自己肯定感を高めていく教育環境と学力の向上が必要である。
- タブレット端末を活用したICT教育が進んでいる一方で、アナログ学習とのバランスも重要である。
- 教員の業務負担の増加や教員不足などにより、児童生徒と向き合う時間の減少につながらないよう、教員を取り巻く環境の整備が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 個性を伸ばし、自己肯定感を高め、1人ひとりの希望の実現につながる教育が充実している状態。特に中学生においては、多様な進路がある中で、自身の個性を活かすなど希望する進路に進めるような環境が整備されている状態
- 地域人材や企業の連携活用など、今以上に教員が担う役割に注力できるよう教員が充実し、働きやすい環境が整備されている状態
- 学校におけるICTを普及、活用する中で、ITリテラシーやアナログの大切さも身に付けつつ、教員と児童生徒のコミュニケーションや関係性を育む環境が整備されている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の取り組み	<p>【市民×議会×行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内には多様な地域人材（企業、個人）がいることから、児童生徒たちが社会の様々な分野に興味を持ち、可能性を広げるきっかけ作りとして、地域人材を活用する。教員の人手不足の解消にもつなげていく。 ・様々な人と直接関わる体験型授業や町探検、アナログの大切さを伝える取り組みを行う。 ・児童生徒が学校の改善点等をプレゼンするコンテストを開催し、児童生徒からの意見を吸い上げる仕組みを作り、上位者のアイデアを取り入れるなど、議会から行政に働きかける。
それぞれの取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校と意見交換をする場を増やし、登下校の見守りなどPTAや地域ができることについて、改めて話し合うことで、教員が働きやすい環境（教員が児童と向き合う時間）の創出につなげていく。 ・各子ども会や戸田市子ども会連合会などがアンケートにより児童の意見を収集する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の意見を吸い上げて学校や行政に発信する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは、自己肯定感や将来について明るい見通しがあるか等の現状把握が必要であることからアンケートを実施した上で、それらを向上させる取り組みを検討する。） ・熟練度別教育を行うことで、児童生徒はより効果の高い学習を行うことができ、教師も教えやすい環境が構築される。

1 基本目標 のゴール

II 創造性や豊かな心を育むまち

市民が、生きがいづくりやまちづくりへ参画するために、生涯にわたって学び合える環境を構築するとともに、文化・スポーツ活動を通じて文化の創造・継承やスポーツに触れることで、人生100年時代を心豊かに過ごせるまちを目指します。

2 テーマ

【生涯学習、芸術・文化、スポーツ・レクリエーション】

3 テーマと各分野における提言内容

(1) 生涯学習

現状と課題

- 市民大学(特に大学提携講座)の開催は主に平日昼間で、現役世代が参加しにくいことに加え、カリキュラムも少ないことから講座バリエーションの更なる充実が求められる。
- 全世代に対し、生涯学習という言葉の意味が伝わっていない。
- 学校教育と比べ、生涯学習の ICT 化が遅れていることに加え、様々な取り組みを市ホームページの各ページで周知しているが、情報の分散により学習機会を逃していることもあるため、情報の一元化や誰もがアクセスしやすい仕組みが必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 多世代ニーズに対応できるよう生涯学習のイメージを変え、生涯学習内容の周知の工夫を行うとともに、学習することによるメリットを明確にし、皆が参加したい講座等があるまち

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		【市民×議会×行政】 ・市民、議会、行政が連携し、ニーズの把握や企画を行いながら、市民が参加したくなるイベントを開催する。
それぞれの取り組み	市民	・市民が講師となって、市民に広げる、市民による市民のための講座を開設する。
	議会	・議場を生涯学習の場として提供する。
	行政	・土日や夜間の講座開講など、誰もが参加しやすい時間帯での講座を増やす。 ・オンライン配信の更なる拡大や、配信方法を工夫する(2倍速等、短い時間で欲しい情報得られる効率的な受講、アーカイブ配信) ・著名人やインフルエンサーだけでなく学生を活用した情報拡散等により、親しみやすい環境を構築する。 ・彩湖・道満グリーンパーク等を活用した野外学習を実施する。 ・仕事に生かせる講座の開設など、講座内容のバリエーションを増やし、多世代に向けに誰もが親しむことができる、カリキュラムを構築する。

(2) 芸術・文化

現状と課題

- 文化・芸術活動ができる施設や場所が少なく、文化会館の利用者が一部のサークルなどに偏っており利用し難いことから市民が発表する場が限られている。
- 市民が参加できる芸術イベントが開催され、かつ皆が芸術・文化に触れるきっかけとなるような戸田市を代表するようなシンボリックで大規模なイベント等があると良い。

今後、5年間の目指すべき姿

- 多世代の人が芸術文化を実感できる魅力的なイベントがあるまち
- 市民が活動実績を発表する場が十分にある状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の 取り組み		【市民×行政】 ・彩湖・道満グリーンパークを文化・芸術の発信拠点として、大規模かつ様々なイベントを開催することで戸田市の魅力を発信しつつ、市民の皆様にも積極的に参加いただく。 ・利用者のニーズを把握し、ニーズに合った施設や場所を確保することで、芸術・文化活動をしやすくする。 ・既存の活動を見直し、各文化・芸術活動団体と連携して、多世代が魅力を感じられるようなイベントづくりに向けた検討を行う。
それぞれの 取り組み	市民	・芸術文化に関するイベント開催について、行政に働きかける。
	議会	・芸術文化に関するシンボリックなイベント開催を提案するなど、行政に働きかける。
	行政	・福祉センター等を芸術活動にも使えるようにすることで、身近な文化の発信拠点を各地区に作る。

(3) スポーツ・レクリエーション

現状と課題

- スポーツを「する」だけでなく、「みて」楽しむこともできるような「スポーツの拠点」であることが大切である。
- スポーツの魅力等に触れ合う機会を増やす目的で、プロリーグの試合観戦やオリンピック選手などとの交流ができる機会を設けることも効果的である一方で、戸田市内の貴重な地域資源(施設・選手)を活用したイベント等の開催が少ない印象がある。
- スポーツセンターは「スポーツの拠点」として中心的な施設であるだけでなく、防災などの複合的な機能を備えた魅力的な施設になることが求められる。また、ポートコースの存在も戸田市の大きな特徴であり、彩湖・道満グリーンパークと一体的に取り組むなど、既存資源を「スポーツの拠点」として活用していく必要がある。

今後、5年間の目指すべき姿

- 地域資源(施設・選手等)を活用し、誰もがスポーツに触れ合い、楽しむ機会が増えた状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		<p>【市民×行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックによるボート教室やラグビー教室等、プロによるスポーツ教室等を実施し、スポーツに触れてもらうことで、スポーツに親しめる機会を創出し、関心度の向上や認知度の向上を図る。 ・ボートなど、色々な水辺のスポーツに触れてもらう機会の創出に努める。 ・「スポーツの拠点」としてのスポーツセンターの活用法を官民連携で考え、より魅力的な拠点となるようハード整備等も視野に入れ検討を進める。
それぞれの取り組み	市民	・スポーツ施設・選手や協力団体等の情報を把握の上、積極的に活用する。
	議会	・スポーツセンターの再整備に向けた市民ニーズを把握し、行政への提言を行う。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・プロスポーツのエキシビジョンマッチ等を誘致する。 (戸田ヤクルトレビズ(ラグビー)や戸田メディックス(ソフトボール)との交流事業等) ・魅力創出のため、市民に対し、戸田公園駅の近くのボートを更にアピールするモニュメント等があると実感が湧く。 ・スポーツセンターに観覧席の設置を行う他、施設利用料の見直しなどにより、利用者の拡大に努める。

写真
分科会 C

1 基本目標 のゴール

III 共に生き、支え合い、安心して暮らせるまち

地域医療や健康づくり体制などの充実を進めることで、市民が健康で元気に暮らせるまちを目指します。

また、地域における多様な主体の連携と市民相互の支え合いを基本としながら、的確に福祉サービスを提供することにより、高齢者や障がい者など、支援を必要とする人々が、その人らしく安心して暮らせるまちを目指します。

2 テーマ

【医療、健康づくり、地域における支え合い、高齢者福祉、社会保障、障がい者(児)福祉】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 医療

現状と課題

- 高齢化が進む中、在宅看護や地域医療のニーズが高まっている一方、笹目地区や美女木地区は、他の地区に比べて医療機関が少ないなど、地域医療体制の強化が必要である。また、インターネット等での情報収集が難しい方などへの支援が重要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 住んでいる地域に関わらず、必要な時に適切な医療を安心して受けられる体制が構築されている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容						
協働の 取り組み	【市民×行政】 ・地域包括ケアシステムなど、介護・福祉・障害の施設と地域医療（医師会）との連携を強め、一体的な支援が行える体制を構築する。						
それぞれの 取り組み	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="background-color: #d9e1f2; text-align: center;">市民</td> <td> ・1人では起き上がれない方や外出が困難な方への支援の際、有償ボランティアなど、空き時間に働きたい方を活用していく。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9e1f2; text-align: center;">議会</td> <td> ・議会主催の地域の対話集会、勉強会を開催し、市民の意見をくみ上げる。 ・先行自治体に視察（関心のある市民が同行）し、政策の精度を上げる。 ・市民の意見を取りまとめ、必要なものは条例の立案につなげる。 </td> </tr> <tr> <td style="background-color: #d9e1f2; text-align: center;">行政</td> <td> ・インターネットが得意でない、使えない方なども簡単に医療機関情報を手にすることができるよう、周知を強化する。 ・あいパルなどの公共施設、学校施設、町会会館等を活用し、地域に出向いた巡回診療を年2回行うなど、現状より回数を増やすことを検討する。 </td> </tr> </table>	市民	・1人では起き上がれない方や外出が困難な方への支援の際、有償ボランティアなど、空き時間に働きたい方を活用していく。	議会	・議会主催の地域の対話集会、勉強会を開催し、市民の意見をくみ上げる。 ・先行自治体に視察（関心のある市民が同行）し、政策の精度を上げる。 ・市民の意見を取りまとめ、必要なものは条例の立案につなげる。	行政	・インターネットが得意でない、使えない方なども簡単に医療機関情報を手にすることができるよう、周知を強化する。 ・あいパルなどの公共施設、学校施設、町会会館等を活用し、地域に出向いた巡回診療を年2回行うなど、現状より回数を増やすことを検討する。
市民	・1人では起き上がれない方や外出が困難な方への支援の際、有償ボランティアなど、空き時間に働きたい方を活用していく。						
議会	・議会主催の地域の対話集会、勉強会を開催し、市民の意見をくみ上げる。 ・先行自治体に視察（関心のある市民が同行）し、政策の精度を上げる。 ・市民の意見を取りまとめ、必要なものは条例の立案につなげる。						
行政	・インターネットが得意でない、使えない方なども簡単に医療機関情報を手にすることができるよう、周知を強化する。 ・あいパルなどの公共施設、学校施設、町会会館等を活用し、地域に出向いた巡回診療を年2回行うなど、現状より回数を増やすことを検討する。						

写真
分科会 B

(2) 健康づくり

現状と課題

- 健康意識が高くない人、仕事や体調など、健康づくりの活動に参加できない人に対するアプローチが必要である。
- 運動習慣のない人の割合の増加や単身高齢者の増加など、運動や外出頻度が低下する中、健康づくりとしての外出や社会参加が重要になっている。

今後、5年間の目指すべき姿

- 日々の生活における様々な行動が健康づくりにつながっていくことで、市民全体の健康意識を高め、住むだけで健康になるまちを目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の取り組み	【市民×行政】 ・行くだけで「健康づくり」について考えられる公共施設や、「食の健康づくり」を応援するお店を増やすなど、「地域ぐるみの健康づくり」を進めていく。
それぞれの取り組み	市民 ・ウォーキングコースの紹介やイベント参加など、ウォーカブルなまちづくりに参画し、新たな賑わいを生み出していく。 ・高齢者に関し、町会に加入していなくても参加できる健康づくりの集会や散歩イベントを開催する。
	議会 ・駅周辺が「健康」を目的として、歩くことを楽しめる環境になるよう、色々な人に声掛けをして意見を募る。
	行政 ・市内散策コースや地図作成による歩きたくなるような空間づくりなど、ウォーカブルなまちづくりを進めていく。 ・健康づくりアプリを利用したインセンティブ付与により、食べ物や賞品がもらえて「おいしく健康管理」ができる取り組みを進めていく。

(3) 地域における支え合い

現状と課題

- 転出入者や仕事で日中不在の世帯も多い。さらには、地域行事の参加や近所付き合いの減少などにより高齢者と子ども・若者が交流する機会も減少している。
- 民生委員などの地域福祉の活動に対するハードルが高く、成り手が少ない。また、次世代の担い手育成も重要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 世代間の交流を通して、将来を担う世代とスキル・知識・経験を分かち合う機会を増やしていくことで、信頼関係を育み、子ども・若者と高齢者の繋がりがあるまちを目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の取り組み	【議会×行政】 ・議会は様々なニーズを捉え、つなぐ存在となり、行政はそれを集約し、重層的な連携を図る仕組みをつくる。

		【市民×行政】 ・地域ごとや市のイベントを巡りつつ、民生委員などの活動を周知していく。
それぞれの 取り組み	市民	・PTAなども含め、これまでと同じ仕組みでは対応が困難になるため、コミュニティを重層的につなげていく仕組みが求められる。特に各団体のリーダー達がつながる仕組みを検討する。
	議会	・民生委員など、地域における支え合いに関する先進的な取り組みを調査し、政策を強化する。
	行政	・民生委員など地域福祉の活動について、知る機会を増やしていく。

(4) 高齢者福祉

現状と課題

- コミュニティ活動に参加したくても、参加できていない高齢者がいる。町会やグループに加入していないと参加しにくいなど、既存のコミュニティへの参加の敷居が高いのではないかな。
- コミュニティ活動に自主的に参加できる人を増やすとともに、活動していない人が活動したいと思えるきっかけ作りも必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 高齢者の誰もが気軽に参加できる様々なコミュニティが形成されることで、高齢者の見守りや社会とのつながりを持ち続けている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
それぞれの 取り組み		【市民×行政】 ・コミュニティ活動団体などの運営主体と行政が連携し、参加する全員が「初めまして」のイベントの開催など、高齢者が新しいコミュニティに参加できるような仕組みを各コミュニティで作る。 【市民×議会】 ・市民の企画するイベントなどに議員が参画・バックアップしながら、市民が様々な経験を積むことで、コミュニティ活動を主催する人材の育成につなげていく。
	市民	・近くの公園など、歩いていける環境でのイベント開催など、参加しやすいコミュニティ活動を進めていく。
	議会	・先行自治体の視察に行くなど、地域を巻き込んだ勉強会を開催する。
	行政	・町会だけでなく、高齢者も参加できるような活動をしているボランティアや民間団体、若者たちを行政がマッチングし、活性化させていく。

(5) 社会保障

現状と課題

- 年金などの既存の社会保障制度や経済的な不安から、高齢者の再就職や就職しても定着しないケースが増えている中、年齢等に関係なく就労支援を行っていくとともに、年金制度などに関する正しい情報を周知していく必要がある。
- 経済的に厳しく就業が難しい高齢者をはじめ、くらしや家計、住まいなど様々な問題を抱えている生活困窮者一人ひとりの状況に合わせた支援体制の更なる確保が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 年齢や生活環境にかかわらず、多様な働き方を受け入れる環境づくりが整っている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
それぞれの 取り組み	市民	・「働きたくても働けない」「住む場所がない」など、いつ自分に起こるか分からないこととして、日頃から行政などの情報を適切にキャッチするとともに、町会などの地域のコミュニティ内においても企業や就労場所の情報など、必要とする人に必要な情報を提供できる仕組みを構築する。
	議会	・生活保護制度のように、必要とする人が支援を受けることができるよう、行政に市民の声を届けつつ、具体的な取り組みを働きかける。
	行政	・年金制度などに関する講座や相談会を開催し、年金に関する正しい情報を提供する。

(6) 障がい者(児)福祉

現状と課題

- 親の高齢化など、障がいのある人の「親亡き後」問題が顕在化してきており、周りの方や地域、施設等の重要性が増すことから、担い手の確保や資質の向上が必要である。
- 障がいのある人たちは、様々な障壁により、生きにくさを感じていることがある。障がいの有無にかかわらず生活しやすい社会づくりのため、障がいについての理解や工夫、配慮などを行っていくことが重要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 障がいによる差別のない共生社会づくりとして、関わり方や障がいについて理解を深め、「障がい等の有無にかかわらず、自分らしく生きられるまち」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の 取り組み	【市民×行政】 <ul style="list-style-type: none"> ・支援の担い手となる施設や事業所職員に対して、県や社会福祉協議会等と連携し、情報提供や研修などの様々な支援を行い、技術・知識を向上していく。 ・障がいのある人と一緒にイベントに参加するなどの機会を増やし、障がいについて理解を深め、意識を変えるきっかけを作る。

それぞれの 取り組み	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいのある人が安心して就労できる場を提供する。 ・当事者や家族の声を共有する機会を作る。
	議会	<ul style="list-style-type: none"> ・行政に対して、障がい者施策に関する提言を行う。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者（児）福祉に係る施設や事業所の人材確保、育成を進めるための独自研修や補助などのサポートを拡充していく。 ・障がいのある人の就労状況について把握し、対策を実施する。

写真
分科会 B

1 基本目標 のゴール

IV 安全な暮らしを守るまち

市民・地域・行政の役割分担と協働のもと、地震や水害などに対する備えや、消防・救急体制を充実・強化することで、災害等に対し強靱な地域づくりを目指します。

また、犯罪や消費生活トラブルをなくすために、市民の意識高揚と警察等の関係主体との連携を図るとともに、安全な道路環境の整備を推進することにより交通事故を防ぎ、市民が安心して、安全に暮らせるまちを目指します。

2 テーマ

【消防・救急、防災、防犯、市民相談・消費生活、河川・水路、道路】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 消防・救急

現状と課題

- 消防団員の高齢化や若者の担い手不足など、地域の消防団員や消防職員の人材確保が難しい状況が続いており、地域の消防力の低下が懸念される。
- AED は、すぐ使えるように、普段から設置場所を把握しておくことが重要であるが、店舗や公共施設内にあるなど、目に留まりにくく、いざという時に設置場所が分からない。

今後、5年間の目指すべき姿

- 地域に十分な消防団員が確保され、消防署と連携し、地域と協力した火災予防や消防・救急活動が維持されている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の 取り組み	<u>【市民×議会×行政】</u> ・消防や消防団の活動が市民に注目されるように定期的な動画配信など、行政だけでなく、個人・企業・議会それぞれが連携し、工夫した広報を行っていく。
それぞれの 取り組み	市民 ・行政の単一的な消防団活動の広報に加えて、町会ごとに活動周知するなど、より身近な問題として分かりやすく PR していく。
	議会 ・市民に対し、消防団の現状や活動について広報や、働きかけを行っていく。
	行政 ・消防や消防団の訓練の市民参加型イベントなど、活動の重要性とともに、広報を行っていく。 ・戸田市救急ステーション制度の周知を行い、AED の設置場所や AED 設置表示証の存在を広く市民に認知してもらうとともに、新たな設置場所の検討を行う。

(2) 防災

現状と課題

- 水害に対する不安の声が多く、大雨による道路冠水などの対策が必要である。
- 1人ひとりが防災意識を高め、「自助」の力を高めることが基本だが、災害発生時に「自助」でできることに限界があり、「共助」が重要となることから、防災訓練への参加や自主防災に関わる人材の確保や育成など、市民の更なる意識向上が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 市民一人ひとりの防災意識を向上させるとともに、自主防災に関わる人材の確保や育成により、地域防災力が高まった状態
- 「自助・共助・公助」それぞれの役割を理解するとともに、町会への加入など、地域における「共助」の力を高め、支え合える状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の 取り組み	【市民×議会×行政】 ・市民、議会、行政がそれぞれの特性を生かしつつ、参加したくなるイベントの開催や訓練等の機会の創出により、防災意識の向上を図る。
それぞれの 取り組み	市民 ・個人の取り組みとしては、日頃から土嚢ステーションの場所を確認する。 ・町会などの地域では、いざという時に、土嚢の運搬などを地域で協力できる共助体制を作る。 ・小中学校で行う地域探検の取り組みなどで、地域の危険箇所マップを作成することで防災意識を高める。
	議会 ・市民に対し、防災情報の提供を行うとともに、共助の理念を伝えていく。
	行政 ・デジタル技術等を活用し、防災情報にいつでもアクセスできる環境を提供する。 ・学校教育の一環として、防災教育を充実させ、中学生防災士の育成を促進する。

(3) 防犯

現状と課題

- 市全体では、バイクや自転車盗難が多いが、地域によって犯罪発生状況が異なるため、状況に応じた防犯情報の共有なども必要である。
- 直近20年間で犯罪発生件数は減少しているものの、地域によっては街灯が少なく、暗が多い。また、見守り防犯カメラの不具合が生じるなど、体感治安の改善も必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 地域ごとの特性に応じた防犯対策の実施や、市民への防犯情報の共有により、1人ひとりの防犯対策や意識が高まった状態
- 地域によっては、夜道を歩く際に不安を感じる場所が多いことから、安心感や犯罪・事故防止につながる取り組みを進めることにより、「安心して夜道を歩けるまち」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		<p><u>【市民×議会×行政】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・犯罪を未然に防ぐために、防犯カメラや街灯の設置等の対策を行うとともに、市民・議会・行政が情報を共有しながら、地域で協力してパトロールを行うこと等により、防犯意識を高める。
それぞれの取り組み	市民	・個人や家庭、企業など、それぞれができる防犯対策を行っていく。
	議会	・暗がりや見通しが悪い場所など、市民から寄せられた情報を集約し、市民に共有しつつ、行政に防犯対策を働きかける。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・犯罪発生リスクが高い場所を洗い出し、市民への情報提供や対策を行っていく。 ・見守り防犯カメラの設置場所の見直しなどを行っていく。

(4) 市民相談・消費生活

現状と課題

- 相談内容が複雑化するなど、どこの窓口で相談してよいか迷うことがある。市民相談が気軽にできるように、相談窓口の認知度を向上させるとともに、相談方法の多様化が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 相談したい時に、誰でもどこでも何でも相談できる体制が整っている状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		<p><u>【市民×行政】</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフステージに応じた相談窓口が分かる情報を市ホームページ等で整備し、周知する。また、行政だけでなく、市民や関係団体も周知しつつ、連携しながら、ライフステージが変わる時期に合わせた情報提供を行う。
それぞれの取り組み	市民	・相談を行う前に、自己解決ができないか情報の収集を行う。
	議会	・議員が行う市民相談等を行政の相談窓口へつなげていく。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・対面だけでなく、オンラインによる相談の実施していく。 ・総合案内（コンシェルジュ）の拡充やAIを活用した先進的な取り組みとして、相談内容に応じた窓口を案内してくれる取り組みなどの検討などを行う。 ・学校の授業で、市民相談教育を行うなど、こどもの時期から広く啓発していく。

写真
分科会 A

(5) 河川・水路

現状と課題

- ゲリラ豪雨等により、区画整理地内や河川の近くを中心に、雨水処理能力を超え浸水する、内水氾濫が発生しやすいことから、水害に対する不安の声が多く、依然として浸水対策が重要な状況となっている。

今後、5年間の目指すべき姿

- 浸水・冠水した地域は生活や経済活動に影響を及ぼすおそれがあることから、国県との連携した取り組みやそれぞれができる取り組みを進めることにより「河川の氾濫しないまち」「内水氾濫を減らせるまち」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど	
協働の 取り組み	<u>[市民×議会×行政]</u> ・氾濫を防ぐための河川整備だけでなく、被害を軽減させるための対策も重層的に行う「流域治水」の考え方を基に、市全体でできる対策（住宅敷地内の工夫や水害リスク情報の共有、工場や建物の浸水対策など）を行う。	
それぞれの 取り組み	市民	・自宅周りの排水溝（側溝）の清掃など、身近にできる浸水対策を行っていく。 ・被害軽減、早期復興の取り組みとして、避難に必要な情報や行動を把握し、共助による助け合いができるよう、日頃から洪水ハザードマップの活用や水害マイ・タイムラインの作成を行う。
	議会	・市民や地権者の声を行政に届けるとともに、区画整理地内の排水施設の整備の重要性について市民等の理解を深めるなど、市民と行政のつなぎ役になる。
	行政	・河川や下水道施設、雨水貯留施設の計画的な整備に加えて、個人でできる浸水対策や水害にあった市民への支援などの情報提供を積極的に行っていく。

写真
分科会 A

(6) 道路

現状と課題

- 歩道を歩く際、段差やがたつきなどのバリアフリーでない場所、狭く見通しが悪い場所があり、場所によっては、歩行者として危険を感じることもある。
- 植樹帯の管理が悪く、道路の視認性が悪くなることから剪定の頻度を増やす必要がある。
- 自転車道路を使わないマナーの悪さ。
- 一部地域で道路が冠水する。

今後、5年間の目指すべき姿

- 歩行者が守られる歩行者ファーストを第一に、きめ細やかな配慮がされた歩行者に優しい道路があるまち
- 災害時の冠水等に負けない道路があるまち
- 植樹帯や街路樹等が適切に管理された視認性の良い道路があるまち

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
協働の取り組み	<p><u>[市民×行政]</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹帯の適切な管理により道路の安全性を高めるとともに、トレードマーク作りなどの愛着につながる取り組みや、歩いていて楽しいウォークアブルな街づくりを進めていくとで、地域への愛着を深めていく。 ・道路や植栽の剪定等の維持管理については、市民の協力も仰ぎながら、地域全体を整えていく。 	
それぞれの取り組み	市民議会	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の不具合や危険箇所などについて、公式LINEなどを活用し情報提供をする。 ・道路が冠水しないよう、台風などが来る前に自宅前の道路を清掃する。 ・市民の声を聞ききながら、具体的な取り組みを行政に働きかける。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・公式LINEなどを有効活用し、道路の不具合などの情報を収集しつつ、段差解消や点字ブロックの補修など、歩行者ファーストの考え方にに基づき歩道整備を行う。 ・道路下の空いた空間に雨水貯留槽の整備を行う。

写真
分科会 C

1 基本目標 のゴール

V 快適に過ごせる生活基盤が整備されたまち

都市基盤の整備を推進するとともに、景観の調和やライフラインの整備、公共交通の更なる利便性の向上などにより、市民生活の快適性の確保を目指します。

2 テーマ

【市街地整備・景観、住宅、上下水道、公共交通】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 市街地整備・景観

現状と課題

- 市内3駅の東西の出入口で景観が異なっており、整備された駅周辺では賑わいがある。
- 新曽地区の土地区画整理事業の長期化により、景観が良くない状態が続いている場所がある。
- 新曽南地域やJR埼京線脇の歩道等で街灯が少なく暗いため、歩きにくく、防犯等の安全面でも心配である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 駅を中心とした賑わいと活気に溢れ、美しい景観が広がったまち
- 安心して暮らせる快適で秩序あるまちが実現した状態
(快適で秩序あるまち = 照明灯やバリアフリー推進、まちづくりの進捗情報取得)

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容
協働の取り組み	【市民×行政】 ・綺麗な駅前の有効活用により、戸田駅西口駅前や北戸田駅東西口前でイベントなどによる賑わい創出事業を実施する。
それぞれの取り組み	市民 ・SNS等を活用し、駅前でのイベントなどの参加や情報発信を行う。
	議会 ・議会だよりにおける情報発信を行う。 ・市民から意見を吸い上げて、議会の場で政策として提言していく。また、計画の進捗を確認する。
	行政 ・SNS等を活用し、土地区画整理事業やまちづくりの状況について、市の広報として情報発信していく。(良好な景観や市街地の活気の情報提供) ・工事看板等でQRコードを読み取りできるようにすることで、まちづくりの情報を市民がタイムリーに取得できるようにする。 ・快適で秩序あるまちの実現に向け、アンケート等により市民の声を収集しつつ、土地区画整理事業の計画的な推進と安心できる環境整備を進める。

(2) 住宅

現状と課題

- 駅周辺はワンルームマンションなどの共同住宅が多く、マンションにより管理状態が様々である。
- 管理状態の悪いマンションの周辺環境の悪化や老朽化対策などが課題となっている。
- ワンルームマンションの増加に伴う、地域コミュニティの希薄化が加速している。(住みにくさ)

今後、5年間の目指すべき姿

- マンションや一戸建て住宅等においても誰もが安心して住み続けられるまち
- 多様な世帯の快適性を担保するため、マンションや一戸建て住宅等の住環境の向上に市が関与できる仕組みがある状態

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
協働の取り組み	【市民×行政】 ・マンション管理士による相談会・セミナーや、マンション管理のメルマガ周知について、積極的に周知を行い、参加する。	
それぞれの取り組み	市民	・地域コミュニティ強化を図るため、マンション共用スペース等を有効活用しながらマンションに住んでいる方でイベント等を実施する。
	議会	・行政がマンション管理に関与できる条例の策定を促す。
	行政	・マンションの管理度合いが分かる指標等をデータベース化し、一定の築年数が経過したら、行政が介入できる仕組みを検討する。 ・子育て世帯や高齢者など、多様な世帯が住みやすくなるよう住環境の保全や改善などの取り組みや新たな仕組みを検討する。

(3) 上下水道

現状と課題

- 他の自治体に比べ水道料金が安い。
- 新曽地域の下水道整備が遅れている。
- 災害発生後はトイレ不足や断水などが問題になるため、日頃から給水・排水に関する備えや減災対策が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 快適な生活維持のために上下水道が100%完備されたまち

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
協働の取り組み	【市民×議会×行政】 ・給水や排水に関して、災害発生後、どのように行動すべきかを日頃から理解した上で、連携した対策や訓練を行っていく。	
それぞれの取り組み	市民	・ハザードマップや行政のガイドラインや広報などから、災害時の給排水に関する知識を身に付け、水の備蓄などの災害対策を進める。

	議会	・災害時のトイレ整備などについて提言する。
	行政	・下水整備 100%を目指して施工を進める。 ・下水道料金が極力上昇しないよう、計画的に維持管理を行うとともに、上下水道施設の耐震化を進める。

(4) 公共交通

現状と課題

- 東西の公共交通アクセスが悪くなく、特に美笹地区の利便性が悪いことから、一部地域のバス運行計画の見直しが必要である。
- バス路線が減少しており、路線バスの維持が課題である。
- 高齢者や自転車に乗れないなどの交通弱者全般に向けた新たな公共交通導入の検討が必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 新たな公共交通の導入や路線バスの可能な限りの維持により、移動の快適性が担保され、誰もが利用しやすい公共交通が維持されたまち

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		<u>【市民×行政】</u> ・交通手段を必要としている人の情報を把握できる仕組みづくり。 ・新たな公共交通手段（ライドシェア）の実証実験を行い、効果測定を行った上で導入を検討していく。
それぞれの取り組み	市民	・ toco バスやシェアサイクルなど、行き先にあった公共交通機関等を積極的に利用する。
	議会	・ 市民や利用者ニーズを把握、集約し、行政に働きかける。
	行政	・ 人手不足に悩むバス会社に対し、大型二種の免許補助等、バス運転手等の待遇改善に向けた取り組みを行う。 ・ 路線バスや toco バスなどの公共交通機関の周知、利用を促進する取り組みをする。

写真
分科会 C

1 基本目標 のゴール

VI 都市環境と自然環境が調和したまち

戸田市が持つ都市の利便性と豊かな自然を活かしながら、市民の環境に対する意識高揚と自主的な取り組みを促すことや、快適な生活環境を創出することで、調和のとれた持続可能なまちを目指します。

2 テーマ

【緑地・緑化・水辺、公園、地球環境保全、廃棄物・リサイクル】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 緑地・緑化・水辺

現状と課題

- 花と緑の環境づくりをもっと進めることで、戸田市の好感度を上げていきたい。
- サクラソウプロジェクトがあるが、道満を中心とした取り組みの印象があり、市の花「サクラソウ」の取り組みが、どれだけ認知されているのか不明である。
- 四季折々の季節の花を感じられるなど、市全体が「市の花」などを活かした新たな観光名所となってもよい。

今後、5年間の目指すべき姿

- 「花の名所にあふれ、サクラソウを中心に花が身近にあることで快適な生活環境が保たれているまち」、「自生している草原など、もとある自然が守られているまち」を目指し、花に溢れたまちになることで、戸田市が選ばれるまちにもつながっていく

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容						
協働の 取り組み	【市民×議会×行政】 ・サクラソウプロジェクトを街中でも行うなど、市民の認知度をあげ、参加者を増やしなが ら、取り組みを拡充していく。						
それぞれの 取り組み	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">市民</td> <td> ・SNS など、若者の情報発信力を活用し、全国に PR していく。 ・家庭にあるプランターやベランダガーデンなどに季節の花を植えていく。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">議会</td> <td> ・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS 等を活用した情報発信を行う。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">行政</td> <td> ・花まつりなど、荒川河川敷や環境空間を活用したイベントや取り組みを進めていく。 ・ゆるキャラ「戸田ヶ原自然再生キャラクターとだみちゃん」を積極的に活用し、こどもに 環境教育などを行っていく。 ・サクラソウの名称を市のイベント名や事業名に取り入れたり、とだみちゃんをより一層活 用することで、サクラソウの認知度をあげていく。 ・人の往来が多い市内 3 駅の駅前において積極的な情報発信を行っていく。 </td> </tr> </table>	市民	・SNS など、若者の情報発信力を活用し、全国に PR していく。 ・家庭にあるプランターやベランダガーデンなどに季節の花を植えていく。	議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS 等を活用した情報発信を行う。	行政	・花まつりなど、荒川河川敷や環境空間を活用したイベントや取り組みを進めていく。 ・ゆるキャラ「戸田ヶ原自然再生キャラクターとだみちゃん」を積極的に活用し、こどもに 環境教育などを行っていく。 ・サクラソウの名称を市のイベント名や事業名に取り入れたり、とだみちゃんをより一層活 用することで、サクラソウの認知度をあげていく。 ・人の往来が多い市内 3 駅の駅前において積極的な情報発信を行っていく。
市民	・SNS など、若者の情報発信力を活用し、全国に PR していく。 ・家庭にあるプランターやベランダガーデンなどに季節の花を植えていく。						
議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS 等を活用した情報発信を行う。						
行政	・花まつりなど、荒川河川敷や環境空間を活用したイベントや取り組みを進めていく。 ・ゆるキャラ「戸田ヶ原自然再生キャラクターとだみちゃん」を積極的に活用し、こどもに 環境教育などを行っていく。 ・サクラソウの名称を市のイベント名や事業名に取り入れたり、とだみちゃんをより一層活 用することで、サクラソウの認知度をあげていく。 ・人の往来が多い市内 3 駅の駅前において積極的な情報発信を行っていく。						

(2) 公園

現状と課題

- 公園についての関心が高く、再整備により利便性などが高まっているが、それを市民により伝えていくことで、市民の満足度もあがるはずである。
- ゴミが落ちていたら拾うなどの行動が「自分たちの公園」という意識となり、愛着につながる。まずは、そのような当たり前の行動を広げていくことが重要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 自分たちの公園という意識をきっかけに、愛着を持ち、「『我がまち公園』と思える場所にあふれたまち」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		【市民×行政】 ・チーム対抗の競技として、公園内のゴミ拾いを楽しむイベントの開催など、ゴミを拾うことを通じて、捨てない気持ちを育てていく仕組みを作る。
それぞれの取り組み	市民	・身近な公園を「自分たちの公園」という意識を持つ。 ・当事者として、計画段階から参画することで、愛着を深めていく。
	議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。
	行政	・公園施設へのネーミングライツのように、地域に密着した名称を付け、愛着を深めていく。 ・公園の整備について、事業所、団体、個人の参画を促し、それらの関わりを看板等で見える化することで、愛着を深める。

(3) 地球環境保全

現状と課題

- 地球環境については、気候変動などが影響していることや国や市が推奨している対策は知っているが、テーマが大きく、日々の生活で実感することもあまりない中、積極的に活動しにくい。
- 太陽光パネルの導入や、新たなエネルギーを生み出すという話より、緑化やリサイクルなどの身近で環境に関する取り組みを複合的に進めた方が環境保全につながるのではないかと。

今後、5年間の目指すべき姿

- 市民が無理なく行える省エネ生活の取り組みとともに、緑化やリサイクルの視点を取り入れた戸田市独自の環境保全活動を推進していくことで、環境保全先進都市を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		【市民×行政】 ・著名人が参加するような環境関連イベントを定期的を開催することにより、イベントの周知と地球環境保全について継続的な意識付けを行う。 ・市内企業の環境問題への取り組み(商品)を市民が購入する、ふるさと納税の返礼品にす

		るなど、行政のバックアップを受けながら、様々な展開につながる好循環を生む連携を行っていく。
それぞれの 取り組み	市民	・環境に良い原料の石鹼をまちぐるみで使っている地域もある。戸田市オリジナルの環境に良い石鹼など、企業ができる環境問題への取り組みを進めていく。
	議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。 ・市民生活常任委員会の議員が中心となり、環境関連イベントに積極的に参加するとともに参加者側の意見などを情報発信していく。
	行政	・企業などが実施する先進的・象徴的な取り組みを行政が積極的にバックアップする。

(4) 廃棄物・リサイクル

現状と課題

- ゴミの分別や出し方、カラス対策など、1人ひとりがルールを守ることができるように、地域や町会ごとの課題にあった方法でルールを浸透させていく必要がある。まず、身近なところから綺麗にすることで、意識も高めていく必要がある。
- リサイクルを推進するためには、ゴミを出して終わりではなく、家庭で分別された資源物がどのような過程でリサイクルされるかをもっと知ってもらうべきである。

今後、5年間の目指すべき姿

- ゴミ出しルールの周知やカラス対策など、地域ごとに必要な取り組みを行うとともに、落ちてい
るゴミを拾うなどが当たり前になる意識を広めていくことで、「ゴミが散乱しない快適なまち」
にしていく。
- 分別の必要性やリサイクルの過程を市民に広く周知することで、リサイクルに対する意識を高め、
興味を持ってもらいながら、「リサイクルが楽しくなるまち」にしていく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
協働の 取り組み	【市民×行政】 ・地域の実情に合ったゴミ出しルールの周知を行い、市民から提供を受けた不法投棄などの 情報が多いエリアを重点的に対策するなど、連携した環境衛生対策を行う。	
それぞれの 取り組み	市民	・各町会のごみ集積所のルールや課題に合わせた周知を行うなど、工夫した対策を行う。
	議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。 ・各地域におけるゴミ集積所等の実情を行政に伝える。
	行政	・地域に応じた周知を行うとともに、多言語チラシの更なる活用や他地区の事例の研究など、 工夫した対策を積極的に行う。 ・資源の再生過程の「見える化」など、衛生センターと連携しながらリサイクルに対する意 識を高め興味を持ってもらえるような工夫した取り組みを行う。

1 基本目標 のゴール

VII 活力にあふれ人が集い心ふれあうまち

多様な働き方の実現や市内経済を支える産業の振興、町会、ボランティアなどの団体に対する活動の促進などにより、「まちの活力」の創出を目指します。

また、地域資源を活かした観光の取り組みを通じて、賑わいの創出を目指すことや、国内外の地域住民の交流を促進することで、人が集まり、心ふれあうまちを目指します。

2 テーマ

【起業・就労支援、産業振興、観光振興、協働・交流】

3 テーマの各分野における提言内容

(1) 起業・就労支援

現状と課題

- 多くの人にとって、「起業」が身近なものではない中で、起業したいと思えるような支援が必要である。また、ソーシャルビジネスやコミュニティビジネスなどの起業家育成も今後、重要になっていく。
- 障がい者雇用に関する制度や接し方が分からないなど、企業としても障がい者雇用の難しさがああり、定着率の低さの要因の一つになっている。
- 働くことにハードルのある人への支援とともに、企業への制度周知など、これまで以上に行っていく必要がある。

今後、5年間の目指すべき姿

- 「起業が身近な選択肢となり、起業家が起業家を呼び、市内で起業したいと思える状態」を目指していく。
- 障がいのある人や働くことにハードルがある人なども含め、「働きたい人が、自分に合う仕事を見つけることができる状態」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容	
協働の取り組み	【市民×行政】 ・商工会などが起業支援として起業アイデアを創出する機会を定期的に設け、行政は事業化や事業拡大などを後押しするなど、一貫性のある支援や仕組みを構築し、市内の起業家や経済に賑わいをもたらしていく。	
それぞれの取り組み	市民	・障がい者雇用に関する支援等の情報収集や、障がい者との関わり方について理解する機会を設けるなど、環境整備を進めていく。 ・商工会が、共同求人等により中小企業の採用活動を支援していく。
	議会	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。

行政	<ul style="list-style-type: none"> ・求職者に対して、幅広い年齢層に対応しながら県や市の就労支援センター、ハローワークなどと連携した支援やマッチングを行うとともに、企業に対しても障がい者雇用に関する支援等の制度について、継続的に周知していく。 ・きめ細やかな相談支援など、起業する人の心を後押しするような支援を充実していく。 ・商工会からの企画提案に対して、柔軟に対応する。
----	---

(2) 産業振興

現状と課題

- ベッドタウンとして都心へ通勤する人が多い戸田市では、近所との交流や市内の名産品や産業について、関心を持ちにくい状況である。
- ふるさと納税の寄付額は増えている一方で、市内における名産品や産業に対する認知度はあまり高くない印象がある。

今後、5年間の目指すべき姿

- ふるさと納税などを通じて、市内の名産品や魅力を市外に発信するとともに、地産地消の取り組みなどにより、市内産業の魅力を市民にも積極的に伝えていくことにより、産業面から「市民一人ひとりのシビックプライドを高めていく」ことを目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担	内容						
協働の取り組み	<p>【市民×行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アイデアコンテストなど、商工会などが中心になって商品開発等のアイデアを創出する機会を定期的に設け、行政は商品化への支援を行う。成功した際は、ふるさと納税返礼品に活用するなど、市の魅力としても発信していく。 						
それぞれの取り組み	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">市民</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・市役所の空スペースなど、市民が多く立ち寄る場所で、名産品などの展示や販売を積極的に行っていく。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">議会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">行政</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「戸田の未来(ミネラルウォーター)」のように、既に販売している市の商品なども地産地消の取り組みとして、積極的にPRを行っていく。 ・市役所内の待合スペースにある広告モニターを活用し、市内の名産品をPRする機会を提供していく。 ・市役所の空きスペースなどを活用し、市内の名産品の販売等ができる場として提供していく。 </td> </tr> </table>	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の空スペースなど、市民が多く立ち寄る場所で、名産品などの展示や販売を積極的に行っていく。 	議会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。 	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・「戸田の未来(ミネラルウォーター)」のように、既に販売している市の商品なども地産地消の取り組みとして、積極的にPRを行っていく。 ・市役所内の待合スペースにある広告モニターを活用し、市内の名産品をPRする機会を提供していく。 ・市役所の空きスペースなどを活用し、市内の名産品の販売等ができる場として提供していく。
市民	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所の空スペースなど、市民が多く立ち寄る場所で、名産品などの展示や販売を積極的に行っていく。 						
議会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。 						
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・「戸田の未来(ミネラルウォーター)」のように、既に販売している市の商品なども地産地消の取り組みとして、積極的にPRを行っていく。 ・市役所内の待合スペースにある広告モニターを活用し、市内の名産品をPRする機会を提供していく。 ・市役所の空きスペースなどを活用し、市内の名産品の販売等ができる場として提供していく。 						

写真
分科会 D

(3) 観光振興

現状と課題

- 彩湖・道満グリーンパークや花火大会、それ以外にも様々な魅力があるが、十分に活用されていない。また、市全体として、行政がどのように観光に力を入れていきたいかなどの方向性が分かりにくい印象がある。
- 荒川からポートコース、彩湖・道満グリーンパークなど水と緑が豊かな地域資源を一体的にPRしていくなど、市の魅力の再発見や認知度をあげていくことが必要である。

今後、5年間の目指すべき姿

- 彩湖・道満グリーンパークなど水と緑、自然を求めて、都内から訪れたいくなるような新たな観光地を作りながら、「市の魅力の再発見や市内外の人に認知され、様々な人に地域資源が活用される状態」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の 取り組み		【市民×議会×行政】 ・総合的なPRを担当する組織に重点的に予算を付け、個々に発信するだけでなく、産業・経済・観光など広い分野で関連性を持ちながら、インフルエンサーの活用など、戦略的に情報発信を行っていく。 ・荒川からポートコース、彩湖・道満グリーンパークなど水と緑が豊かな地域資源を一体的にPRしていく。
		・市の魅力を再発見しつつ、SNSなどで、積極的に発信していく。
それぞれの 取り組み	市民	・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。
	議会	・彩湖・道満グリーンパークをソロキャンプの聖地やロックフェスの開催など、訪れたいくなるような新たな観光地としての活用方法を検討していく。
	行政	

(4) 協働・交流

現状と課題

- 戸田市の総人口は、以前ほど増加していない一方で、外国人の転入は増加しており、双方の文化や生活様式を理解するなど多文化共生を進めていく必要がある。
- 高齢者世帯や単身高齢者が増加する中、孤独感や地域とのつながりの減少など漠然とした不安の声を高齢者から聞くことが増えている。

今後、5年間の目指すべき姿

- 高齢者(功労者)の知恵と経験を活用した多文化共生の取り組みや高齢者の外出を促す取り組みなどを進めることで、「年代や国籍に関わらず、人とのつながりを持ち、自然と関係性が構築された状態」を目指していく。

目指すべき姿を実現するための取り組み、アイデアなど

役割分担		内容
協働の取り組み		<p>【市民×行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と外国人のマッチングの機会を設け、高齢者の知恵や経験を活用しながら、外国人に日本の文化や生活様式を知ってもらい取り組みを行っていく。 ・戸田市の歴史や地域の祭り等の掘り起こしを行いつつ、それを広く知ってもらい取り組みを行っていく。
それぞれの取り組み	市民	<ul style="list-style-type: none"> ・年代や国籍に関わらず、自然と関係性を築いていけるように、誰にでもきちんといさづする習慣を身に付けていく。
	議会	<ul style="list-style-type: none"> ・年間活動テーマに取り入れるなどして、市民からの意見や行政の考えを聞く。 ・委員会として意見をまとめる。必要に応じて意見書や条例等を議会で提案する。 ・市民に対して、SNS等を活用した情報発信を行う。
	行政	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の転入手続の際に、国際交流協会の周知をするなど、外国人の横のつながりを増やしていく。 ・広報や市が作成する動画などについて、多言語で広く発信していく（AI活用により効率的に行う）。

写真
分科会 D